

Point 076

274 The teacher told some students () made mistakes in their spelling to remain after class.

□□□

- ① which ② who ③ whom ④ whose

〈京都光華女子大〉

275 She is a girl () it is difficult to get to know well.

□□□

- ① as ② whose ③ what ④ whom

〈千葉工大〉

276 We are approaching another revolution () will rival the Industrial Revolution of the 19th century.

□□□

- ① which ② what ③ who ④ it

〈中央大〉

277 彼は、私が20年前に英語を教えた学生の1人です。

□□□

He is (taught / I / of / English / students / one / my) twenty years ago.

〈日本女子大〉

278 A doctor () job is operating on patients is called a surgeon.

□□□

- ① who ② whose ③ whom ④ that

〈佛教大〉

279 They said, "Let's build a tower () top will reach up to heaven."

□□□

- ① which ② whose ③ whom ④ that

〈京都学園大〉

整理 31

関係代名詞の格変化

先行詞 \ 格	主格	所有格	目的格
人	who [that]	whose	whom [that]
人以外	which [that]	whose	which [that]

* 目的格関係代名詞は省略されることが多い。

274 先生はスプリングで間違いをおかした数人の学生に、授業の後、残るように伝えた。

275 彼女は、よく理解することが難しい少女だ。

276 私たちは、19世紀の産業革命に匹敵するであろう、また別の大変革に近づきつつある。

278 仕事が患者を手術することである医者は、外科医と呼ばれる。

279 「そのてっぺんが天までとどく塔を建てよう」と彼らは言った。

Point 076 関係代名詞の基本用法

まずは左頁の【整理31】を確認すること。なお、関係詞の解説では紙面の許す限り、問題の英文の前提となる2つの英文から説明することにする。

- 274 「人」が先行詞の主格—**who** [that] 基本
 ▶ { The teacher told *some students* to remain after class.
 They made mistakes in their spelling.
 They が who になり、節全体が先行詞 *some students* と *to remain after class* の間に置かれている。
- 275 「人」が先行詞の目的格—**whom** [that] 基本
 ▶ { She is a *girl*.
 It is difficult to get to know *her* well.
 her が whom になり、節全体が先行詞の後に置かれている。
 !!注意 目的格関係代名詞は省略可能で、本問の whom も省略することができる。
 (→【整理31】)
- 276 「人以外」が先行詞の主格—**which** [that] 基本
 ▶ { We are approaching *another revolution*.
 It will rival the Industrial Revolution of the 19th century.
 It が which になり、節全体が先行詞の後に置かれている。
- 277 目的格関係代名詞の省略 基本
 ▶ { *He* is one of my students.
 I taught *him* English twenty years ago.
 →He is one of my students (**whom / that**) I taught English twenty years ago.
 目的格関係代名詞 **whom**[that]が省略された形を作る。
- 278 所有格関係代名詞—**whose** 基本
 ▶ { *A doctor* is called a surgeon.
 His / Her job is operating on patients.
 His / Her が whose になり、節全体が先行詞の後に置かれている。
 !!注意 **whose** は本問の *job* のように必ず直後に名詞を伴う。
- 279 「人以外」が先行詞でも所有格関係代名詞は **whose** 基本
 ▶ { Let's build *a tower*.
 Its top will reach up to heaven.
 「人以外」が先行詞でも、所有格関係代名詞は **whose** を用いる。

- 280 (a) That restaurant whose roof is painted yellow is going out of business.
□□□
- (b) That restaurant the roof () () is painted yellow is going out of business. 〈小樽商大〉

Point 077

- 281 * 不適切なものを選びなさい。
□□□ She has a clever son ().
- ① of whom she is proud ② she is proud of
③ of that she is proud ④ that she is proud of 〈東京国際大〉
- 282 空を飛ぶことだけが、ただ一つ彼が興味を持っていたことでした。
□□□ Flying (only / he / the / interested / thing / was / in / was). 〈獨協大〉
- 283 These are the tools () he built his own house.
□□□ ① which ② that ③ with which ④ with that 〈青山学院大〉

- 280 (a) (b) 屋根が黄色く塗られたあのレストランは倒産しかけている。
281 彼女には自慢の賢い息子がいる。
283 これは、彼が自分自身の家を建てるのに使った道具である。

280 whose A → the A of which

標準

- ▶ 「人以外」を先行詞とする場合、**whose A** は、**the A of which** の形でも表すことができる。下の㉞を前提にすれば **whose A**、㉟を前提にすれば **the A of which** となると考えればよい。

{ *That restaurant is going out of business.*
 { ㉞ *Its roof is painted yellow.*
 { ㉟ *The roof of it is painted yellow.*

㉞→(a) : **whose roof** is painted yellow

㉟→(b) : **the roof of which** is painted yellow

Point 077 : 節内で前置詞の目的語となる語が先行詞の場合

節内で、前置詞の目的語になっている語が先行詞である場合、次の2通りが可能。

㉞目的格関係代名詞にしてそのみを節の頭に持って来る(前置詞は後置される)。

!!注意 目的格関係代名詞は省略可能。

㉟「前置詞+関係代名詞」をセットにして節の頭に持って来る。

!!注意 目的格関係代名詞は省略できない。また、「前置詞+that」は用いられない。

281 節内で前置詞の目的語となる語が先行詞の場合の考え方

標準

- ▶ 上記の説明の㉞, ㉟のパターンを考える。

{ *She has a clever son.*
 { *She is proud of him.*

→㉞ : *She has a clever son (whom / that) she is proud of.*

→㉟ : *She has a clever son of whom she is proud.*

- ▶ ㉟は、上記㉟で可。㉞は、㉞の関係代名詞を省略した形で可。㉞は、㉟で that を使うことはできないので不可。㉞は、㉞で that を使った形で可。

282 目的格関係代名詞の省略→前置詞の後置

標準

- ▶ Point 077 の下の説明の㉞。目的格関係代名詞を省略した形。

283 「前置詞+which」→with which

標準

▶ { *These are the tools.*
 { *He built his own house with them.*

- ▶ 「前置詞+that」の形はないので、㉞ with that は不可。(→ Point 077 の下の説明の㉟の

!!注意)

Point 078

284 This is the park () Mozart used to take a walk after dinner.

□□□ ① that ② where ③ which ④ why <京都産大>

285 The mountain () you climbed last summer is the second highest mountain in Japan.

□□□ ① what ② whom ③ which ④ where <亜細亜大>

286 The time will soon come () the cruel war will end.

□□□ ① when ② what ③ why ④ how <名古屋学院大>

287 There are several reasons () we should not agree to her request.

□□□ ① how ② where ③ which ④ why <京都学園大>

288 英語と日本語では、主語の表現のされ方に言語的な違いがある。

□□□ There is a linguistic (in / expressed / difference / be / subjects / can / how) in English and Japanese. <名古屋外大>

考え方

関係副詞の考え方—「前置詞+which」が前提

The hotel **where** we stayed was very comfortable.

(私たちが滞在したホテルは非常に快適だった)

① 先行詞 the hotel を 2 度使って、上記英文の前提となる 2 文を考えると

{ The hotel was very comfortable.
We stayed **at** the hotel.

② この 2 文を「前置詞+which」(⇒283)で 1 文にすると

The hotel **at which** we stayed was very comfortable.

③ この **at which** を 1 語で表現すれば、関係副詞 **where** となる。

The hotel **where** we stayed was very comfortable.

関係副詞は、常に「前置詞+which」の形を前提にする場合にのみ用いられる。

「前置詞+which」の形があってはじめて、場所を表す語が先行詞なら **where**、時を表す語が先行詞なら **when**、理由を表す語(通常 reason)が先行詞なら **why** を用いる。場所が先行詞であれば関係詞は where という考え方は間違い(⇒285)。

284 ここは、かつてモーツァルトが夕食後に散歩をしていた公園です。

285 昨年の夏にあなたが登った山は、日本で 2 番目に高い山です。

286 むごい戦争が終結するときに間もなくやってくるだろう。

287 彼女の要求に同意すべきではない理由がいくつかある。

Point 078 : 関係副詞

まずは、左頁の(考え方)で関係副詞の考え方を理解しておこう。

284 関係副詞の考え方—「前置詞+which」の場合に用いる

標準

▶ 左頁(考え方)を参照。

{ This is *the park*.

{ Mozart used to take a walk **in the park** after dinner.

→ This is the park **where** [**in which**] Mozart used to take a walk after dinner.

285 場所が先行詞—関係代名詞 **which** が来る場合

標準

▶ 場所が先行詞であるからといって、④ where を選ばないこと。climb 「…に登る」は他動詞であるから、

{ *The mountain* is the second highest mountain in Japan.

{ You climbed *it* last summer.

it は climbed の目的語だから、「人以外」を先行詞とする目的格関係代名詞③ which が入る。前問と本問で関係副詞と関係代名詞の違いを理解しよう。

286 関係副詞 **when**

標準

▶ 時を表す語を先行詞とした関係詞節の前提となる英文は、次のとおり。

The cruel war will end **at the time**.

したがって、at which の内容を1語で表した関係副詞① when が正解。

287 関係副詞 **why**

標準

▶ 理由を表す語を先行詞とした関係詞節の前提となる英文は、次のとおり。

We should not agree to her request **for several reasons**.

したがって、for which の内容を1語で表した関係副詞④ why が正解。

288 関係副詞 **how**

標準

▶ 関係副詞 how は、先行詞として the way を想定して用いるものだが、現代英語では the way how S+V... の形は使われず、「…するやり方/…する様子」の意味では、次の形を用いる。

(1) **how S+V...**

(2) **the way S+V...**

(3) **the way in which S+V...**

(4) **the way that S+V...**

▶ 本問では、前置詞 in の後に how で始まる節を作る。

289 彼の話し方から判断すると、大阪生まれではないと思います。

□□□ (the / he / from / speaks / way / judging), I'm sure he is not a native of Osaka. 〈四天王寺大〉

290 その本を読んではしまったら、もとの場所へ返しておいてください。

□□□ Put the book back (was / when / where / to / you're / it) through with it. 〈西南学院大〉

291 (a) I don't like him. That is because he is always saying bad things about other people.

□□□

(b) He is always saying bad things about other people. That () () I don't like him.

〈静岡県立大短大部〉

Point 079

292 I live in the suburbs of Yokohama, () is Japan's second largest city.

□□□

① where ② that ③ what ④ which

〈名城大〉

- 291 (a) 私は彼が好きではない。それは、彼がいつも他人の悪口を言ってばかりいるからだ。
 (b) 彼はいつも他人の悪口を言ってばかりいる。そういうわけで、私は彼を好きではない。
- 292 私は、日本で2番目に大きな都市である横浜の郊外に住んでいる。

289 the way S+V...

標準

▶ 慣用的分詞構文 **judging from A** 「Aから判断すると」(→p.72【整理18】)のAの位置に、**the way S+V...**(→288)の表現をまとめる。

290 関係副詞の先行詞の省略—where の場合

発展

▶ 関係副詞の先行詞が省略され、関係副詞で始まる節が結果として名詞節の働きをする場合がある。

▶ 本問は、場所を表す前置詞 to の後に、the place を省略した where で始まる節を作る。

+プラス 関係副詞 **when** と **why** は、その先行詞が the time や the reason といった典型的な語であれば、先行詞が省略される場合があるだけでなく、先行詞を残して関係副詞 **when / why** の方が省略されることもある。

291 関係副詞 why の先行詞の省略—That is why ...

標準

▶ 先行詞 the reason を省略して、**That is why ...** 「そういうわけで... (←それが...する理由だ)」の表現を作る。

+プラス **That is the reason why ...** や、関係副詞 why を省略した **That is the reason ...** の形もある(→290)。

!!注意 { **That is because ...** 「それは...だからです」
 { **That is why [the reason why / the reason] ...** 「そういうわけで...」
 この2文の違いを本問で確認すること。表現の順序が逆になることに注意。

Point 079 非制限用法の関係詞

関係詞の前にカンマを置いて、先行詞を付加的に説明する用法。

!!注意 ⑦非制限用法で用いられる関係代名詞は、which / who / whose / whom / 「前置詞+which」 / 「前置詞+whom」で、that は用いられない。

①非制限用法では目的格関係代名詞であっても省略できない。

②非制限用法で用いられる関係副詞は where と when で、why と how は不可。

292 非制限用法の関係詞の考え方

読解 基本

▶ 本問は、Yokohama という「人以外」が先行詞で、節内では主語の働きをしているから、主格関係代名詞 **which** を入れる。

+プラス 本問の Yokohama のような固有名詞や the sun など世の中に1つしかないものが先行詞の場合、原則として関係詞節は非制限用法にする。自明のものは「制限」する必要はないからである。なお、日本語では「私の好きな横浜」といった表現をするので、「制限」的に訳してよいことも多い。

293 As a result of working at the newspaper, I met my future husband,
□□□ () was also working there.

- ① when ② which ③ that ④ who 〈四天王寺大〉

294 Last winter I went to Hong Kong, () as warm as I had
□□□ expected.

- ① when wasn't ② where it wasn't
③ where wasn't ④ which it wasn't 〈センター試験〉

295 She had three sons, all () became doctors.

- ① of whom ② which
③ who ④ of which 〈東海大〉

296 He lent me two books, neither of () I have read.

- ① that ② which ③ what ④ them 〈和洋女子大〉

Point 080

297 We got stuck in a traffic jam, () made us forty minutes late
□□□ for the meeting.

- ① which ② that ③ it ④ as 〈東邦大〉

298 I tried to solve the problem, () I found a waste of time.

- ① what ② which ③ that ④ when 〈和洋女子大〉

- 293 その新聞社で働いた結果として、私は未来の夫に出会ったが、彼もやはりそこで働いていたのだった。
- 294 この前の冬、私は香港に出かけたが、そこは私が思っていたほど暖かくはなかった。
- 295 彼女には3人の息子がいたが、全員が医者になった。
- 296 彼は私に本を2冊貸してくれたが、私はそのどちらも読んでいない。
- 297 交通渋滞に巻き込まれてしまい、それで私たちは会議に40分遅れてしまった。
- 298 私はその問題を解こうとしたが、それは時間のむだだとわかった。

293 非制限用法の **who**

基本

- ▶ 「人」が先行詞の主格関係代名詞 **who** を入れる。
- ▶ 非制限用法で **that** は用いられないので③ **that** は不可。(→ Point 079 の下の説明の !!注意 の㉗)

294 関係副詞の非制限用法

標準

- ▶ 関係副詞の **where** と **when** は、非制限用法で用いられることがある。
why と **how** には非制限用法はない。
- ▶ { Last winter I went to *Hong Kong*.
It wasn't as warm **in Hong Kong** as I had expected.
したがって、関係代名詞を使えば **in which** it wasn't となるが、その **in which** を関係副詞 **where** で言いかえた② **where** it wasn't が正解。
▶ **where** it wasn't の **it** は寒暖の **it**。

295 , **all of whom** ...

標準

- ▶ **A of whom / A of which** の形をセットにして節の頭に置き、非制限用法で用いることがある。
- ▶ { She had *three sons*.
All of them became doctors.
them を **whom** にし、**all of whom** を節の頭に置いたもの。

296 , **neither of which** ...

標準

- ▶ { He lent me *two books*.
I have read **neither of them**.
考え方は問題 295 と同じ。**them** を **which** にし、**neither of which** を節の頭に置いたもの。

Point 080 : 非制限用法で用いる **which** の注意すべき用法297 前文の文内容が先行詞—**which**

標準

- ▶ 関係代名詞 **which** は非制限用法の場合に限って、前文全体またはその一部の文内容を先行詞として用いることがある。本問の **which** は、前文全体の内容を先行詞とする、主格関係代名詞。

298 前文の一部の文内容が先行詞—**which**

標準

- ▶ **which** は、前文の **to solve the problem** の内容を先行詞として、目的格で用いられている(→ 297)。なお、**found** は **find** O C 「O が C だとわかる」の用法であり、その目的語が **which** になっている。

299 I was told to take a bath, () advice I followed.

- ① which ② whose ③ its ④ what

〈実践女子大〉

Point 081

300 () seems easy at first often turns out to be difficult.

- ① It ② That ③ What ④ Which

〈國學院大〉

301 He spends () he earns on his son.

- ① as ② but ③ that ④ what

〈中部大〉

302 私たちは紙の裏に、注文したいものの絵を描いた。

- On the back of the paper we (wanted / of / order / pictures / we / drew / what / to).

〈東洋大〉

303 Mary lost () little money she had.

- ① which ② whose ③ how ④ what

〈東京家政大〉

Point 082

304 Jack owes () he is to the support of his wife.

- ① as ② that ③ what ④ which

〈京都産大〉

299 風呂に入るように言われ、私はその勧めに従った。

300 最初は易しいと思えることが、後になって難しいとわかることがしばしばある。

301 彼は、稼いだ分を自分の息子のために使う。

303 メアリーは、少ないながら持っていたすべてのお金をなくした。

304 現在のジャックがあるのは、妻の援助のおかげである。

299 非制限用法で用いる関係形容詞 **which** 発展

- ▶ 関係形容詞 **which** は必ず非制限用法で用い、前文全体またはその一部(場合によっては名詞)の内容を「**which**+名詞」の形で表す。直後に名詞を伴うので、関係形容詞と呼ばれる。本問は、to take a bath = which advice。

Point 081 :: 関係詞 **what** の用法

関係代名詞 **what** 「…すること[もの]」は名詞節を作る。

the thing(s) **which** に相当する表現なので、先行詞を必要としない。

what 自体は、節内で主語・目的語・補語・前置詞の目的語といった名詞の働きをし、**what** 節全体は文の主語・目的語・補語・前置詞の目的語となる。

なお、問題 303 の関係形容詞 **what** の用法も重要。

300 関係代名詞 **what** の用法 標準

- ▶ **what** 自体は節内では主語、**what** 節全体も文の主語になっている。

301 **what**一節内で目的語、節全体も目的語 標準

- ▶ **what** 自体は節内では **earns** の目的語、**what** 節全体も **spend A on B** 「AをBのことに使う」のA、すなわち目的語になっている。

302 **what**一節内で目的語、節全体は前置詞の目的語 標準

- ▶ **pictures of A** 「Aの絵」のAの位置に **what** 節をまとめる。**what** は、節内では **order** 「…を注文する」の目的語になっている。

303 **what A (+S)+V...** 「…するすべてのA」 標準

- ▶ **what** には、後に名詞Aを伴い、「**what A (+S)+V...**」の形で「…するすべてのA」という意味を表す用法がある。
- ▶ この **what** は、名詞を後に伴うことから、関係形容詞と呼ばれる。
- ▶ **what little money S have** 「少ないながらSが持っているすべてのお金」は入試問題で頻出の表現。

Point 082 :: 関係代名詞 **what** を用いた慣用表現304 **what S is** 「今のS(の姿)」 標準

- ▶ **what** は、**what S is** 「今のS(の姿)」、**what S was** [used to be] 「昔のS(の姿)」の形で慣用的に用いられる。本問では **owe A to B** 「AはBのおかげだ」のAの位置に **what he is** 「今の彼」を置いたもの。

+プラス **what S has** 「Sの財産」との対比で、**what S is** が「Sの人格」の意味で用いられることがある。また、**what S should** [ought to] **be** で「Sのあるべき姿」といった使い方もある。

305 (a) He has changed a lot in ten years.

□□□

(b) He is not () he was ten years ago.

〈法政大〉

306 運動の身体に対する関係は、読書の頭脳に対する関係と同じである。

□□□

Exercise is to the body () reading is to the brain.

〈静岡大〉

307 次に、いわゆる「地球温暖化」について話しましょう。

□□□

Next, I would like to (what / talk / called / is / about) “global warming.”

〈東京理科大〉

308 It was getting dark, and () was worse, we couldn't find our hotel.

□□□

① which ② that ③ what ④ but

〈立命館大〉

309 You should remember it, and (), you should get it right.

□□□

① nevertheless ② what's more ③ however ④ on time

〈日本大〉

Point 083

310 The position was filled by a man () she thought was thoroughly competent.

□□□

① of which ② who ③ whose ④ whom

〈東北学院大〉

305 (a) 彼は10年間でずいぶん変わった。

(b) 彼は10年前の彼ではない。

308 あたりはだんだん暗くなり、さらに悪いことに、私たちはホテルを見つけることができなかつた。

309 あなたはそれを覚えておくべきだし、さらには、それをきちんと理解すべきです。

310 その地位は、彼女が申し分なく有能だと考えていた男性によって占められた。

- 305 **what S was** 「昔のS(の姿)」 標準
- 306 **A is to B what C is to D** 「AとBの関係はCとDの関係と同じだ」 発展
- ▶ この表現は、通例、what C is to Dの方に一般によく知られている関係が来る。
- +プラス** 接続詞の **as** を用いた **A is to B as C is to D** も同意表現。
- 307 **what is called A** 「いわゆるA」 英作 標準
- ▶ 本問では、talk about A「Aについて話す」のAを what is called (“global warming”) とまとめる。
- !!注意** この表現は本来「Aと呼ばれるもの」の意から来ているので、Aの前にカンマなどを打たないこと。
- +プラス** 同意表現の **what we[they/you] call A** 「いわゆるA←Aと呼ぶもの」も重要。
- 308 **what is worse** 「さらに悪いことに」 標準
- ▶ 「**what is+比較級**」の形で、副詞表現を作るパターンがある。成句表現として押さえる。
- +プラス** **what is more** (→309)「その上」、**what is more important** 「さらに重要なことに」なども重要。
- 309 **what is more** 「その上/さらに」 標準
- ▶ 文脈から判断する。① nevertheless 「それにもかかわらず」、③ however 「しかしながら」、④ on time 「時間通りに」では文意がつかない。

Point 083 :: 連鎖関係代名詞節

- 310 **a man who she thought was ...** の構造 読解 標準
- ▶ { The position was filled by *a man*.
She thought *he* was thoroughly competent.
- 主格 **he** が用いられているから、関係代名詞は **who** になる。その **who** が、**she thought** を飛び越えて、節の頭に置かれたのが本問の英文。このように、関係代名詞の直後に「S+V」などが入りこんだように見える形を、**連鎖関係代名詞節**と呼ぶ。この形は、関係詞の問題としては最頻出項目。
- !!注意** 連鎖関係代名詞節では、主格の **who** であっても省略されることがあるので、英文読解では注意が必要。

- 311 Are you doing what ()?
 ① you think you are right ② you think it is right
 ③ you think is right ④ it is you think right <日本工大>
- 312 She is a ① promising swimmer ② whom we think will ③ win a gold medal ④ at the next Olympic Games. <昭和女子大>

Point 084

- 313 どうか彼に、自分のためになるような本だけを読むようにと助言してください。
 Please advise him to read only such (him / will / books / as / benefit). <国士館大>
- 314 こうした事柄の通例として、そのうわさはたちまち町中に広がった。
 (these / case / the / affairs / is / as / with), the rumor swept through the town. <立命館大>
- 315 (a) Everyone has weaknesses.
 (b) There is no one () has weaknesses.
 ① but ② who ③ that ④ than <関西学院大>
- 316 必要以上にお金を使ってはいけない。(1語不要)
 Don't (is / money / more / need / needed / spend / than). <学習院大>

- 311 あなたは、正しいと思うことをしていますか。
- 312 彼女は、次のオリンピック大会では金メダルをとると思われている前途有望な競泳選手です。
- 315 (a) 人は誰にでも、弱点がある。
 (b) 弱点のない人はいない。

311 連鎖関係代名詞節を作る **what** 発展

- ▶ 関係代名詞 **what** も連鎖関係代名詞節を作る。本問の **what** は、節内では **is** の主語、**what** 節全体は **doing** の目的語。
▶ ①、②は完結した英文であり、**what** が節内で果たす役割がない。

312 **whom we think will win ... → who we think will win ...** 標準

- ▶ 関係詞節の前提となる英文は、**We think she will win ...** と表されるはず。よって② **whom** は主格の **who** でなければならない。

Point 084 :: 関係代名詞としての **as / but / than** の用法313 先行詞が **such A**—関係代名詞は **as** 標準

- ▶ 先行詞に **such** があれば、関係代名詞として **as** を用いる。本問では **such books** を先行詞とし、**as** を主格の関係代名詞として使う。

+プラス 上記以外に制限用法で関係代名詞 **as** を用いるのは、

- (1) 先行詞に **as** がある場合：**as ... as ~**
- (2) **the same** がある場合：**the same A as ...**

* **the same A** の場合は、**that** も用いる。**the same A that ...**

314 後の文内容が先行詞—関係代名詞は **as** 発展

- ▶ 関係代名詞 **as** は、非制限用法で用いられた場合、後の文の内容または前の文の内容を先行詞と想定して用いることがある。
▶ 本問は後の文の内容を先行詞としている。この場合には、**as is (often) the case (with A)** 「(Aには)よくあることだが」、**as is usual (with A)** 「(Aには)いつものことだが」といった定式化された表現で用いられることが多い。本問は前者の表現を作る。
▶ この **as** を関係代名詞と考えるのは、文と文をつなぐ接続詞の働きだけでなく、節内で代名詞の働き(本問の場合は **is** の主語)もしているからである。

315 関係代名詞 **but (=that ... not ...)** の用法 標準

- ▶ 関係代名詞 **but** は、先行する文が否定文の場合に用いられる。**but** 自体に否定の意味が含まれているから、英文全体は常に二重否定になる。

!!注意 入試では今でも問われるが、かなり古い表現なので、実際に使うのは避けたい。

316 関係代名詞的に用いられる **than** の用法 発展

- ▶ 先行詞に比較級の表現がある場合、**than** を関係代名詞的に用いる。本問では **more money** を先行詞とし、**than** を主格関係代名詞として用いる。

Point 085

317 Derek found an ideal environment ().

□□□

- ① in which foreign languages to be learned
- ② in which to learn foreign languages
- ③ learning foreign languages in
- ④ which to learn foreign languages in

〈慶應義塾大〉

Point 086

318 彼らが自分の国を近代化する手助けをするために、私たちはできることを何でもしなければならない。

□□□

We must (can / do / to / we / whatever) help them modernize their country.

〈近畿大〉

319 動機は何であろうとも、注意深くしていることは良いことである。

□□□

(1 語不要)

(may / motive / whatever / what / the) be, it is well to be on the side of caution.

〈関西大〉

320 家族が何と言おうが、デイヴィッドは考えを変えなかった。

□□□

David did not change his mind, no (to / matter / said / what / his family) him.

〈法政大〉

321 It's not only her friends that Ms. Kinoshita is kind to. She helps

□□□

() needs her help.

- ① those
- ② whatever
- ③ whoever
- ④ whom

〈センター試験〉

317 デレクは、外国語を習得するのに理想的な環境を見つけた。

321 キノシタさんが親切にしているのは、彼女の友人たちだけではありません。彼女は、助けを必要としている人は誰でも助けます。

Point 085 :: 前置詞+関係代名詞+to 不定詞

317 「前置詞+関係代名詞+to 不定詞」の用法

発展

▶「前置詞+関係代名詞+to 不定詞」が、直前の名詞を修飾する用法がある。「前置詞+関係代名詞」のセットが、必ず to 不定詞の前に来なければならない。

この形は、近年、整序問題でもよく問われる。

▶この表現では前置詞を後置することはできない。よって④は不可。

Point 086 :: whatever / whoever / whichever の用法

いずれも名詞節を導く場合と副詞節を導く場合がある。副詞節を導く場合は、いずれも「no matter+疑問詞」に置きかえられる。なお、whatever と whichever の違いは疑問詞 what 「何が/何の」と which 「どちらが/どちらの」の違いと同じで、選択の範囲が限られている場合に whichever を用いると考えておけばよい。

318 名詞節を導く **whatever** 「…するものは何でも」

標準

▶本問の whatever は、節内では can do (do は省略) の目的語で、節全体は must do の目的語となる名詞節。

▶プラス 名詞節を作る whatever は、通例 anything which に置きかえられる。

319 副詞節を導く **whatever** 「何が[を]…しようとも」

標準

▶whatever を用いて譲歩の副詞節を作る。

▶やや形式ばった表現だが、譲歩の副詞節では、助動詞 may を使うことがある。

320 **no matter what ...** 「何が[を]…しようとも」

標準

▶複合関係詞が、譲歩の副詞節を作る場合、「no matter+疑問詞」に置きかえられる。問題 319 の whatever も、no matter what に置きかえられる。譲歩の意味では、whoever / whatever / whichever より no matter who / what / which の方がよく使われる。

321 名詞節を導く **whoever** 「…する人は誰でも」

標準

▶本問では whoever は helps の目的語で、名詞節を作る。

▶プラス 名詞節を作る whoever は、通例 anyone who に置きかえられる。

▶プラス whoever は、「誰が…しようとも」の意の譲歩の副詞節も導く。

▶プラス 節内で目的語の働きをする場合は、文法的には whomever を用いることになるはずだが、今では whoever で代用されることが多い。

She helps *whoever* [whomever] she likes.

(彼女は、自分の好きな人であれば誰でも助ける)

322 **whichever** の用法—**whichever A (+S)+V...** の場合 発展

▶ **whichever** と **whatever** には、直後に名詞Aを伴って **whichever A / whatever A** の形を前提にして、名詞節や譲歩の副詞節を作る用法がある。この点は疑問詞 **which / what** に、**which book** 「どちらの本」/ **what book** 「何の本」といった名詞を直後に伴う疑問形容詞の働きがあるのと同じ。本問の **whichever party** はその用法で、譲歩の副詞節を作る。no matter **which party is ...** と言いかえることもできる。

Point 087 : **wherever / whenever / however** の用法

常に副詞節を導く。譲歩の副詞節を導く場合は、「no matter + 疑問詞」に置きかえられる。

323 **wherever** 「どこで…しようとも」の用法 標準

▶ **wherever** は「㉞…するところはどこでも、㉟どこで…しようとも」の意味を表す。本問は㉟の意味で使う。譲歩を表す本問のような㉟の場合は、**no matter where** に置きかえられる。

= I will go with you *no matter where* you go.

324 **whenever** 「…するときはいつでも」の用法 標準

▶ **whenever** は「㉞…するときはいつでも、㉟いつ…しようとも」の意味を表す。本問は㉞の意味で使う。なお、譲歩を表す㉟の場合は、**no matter when** に置きかえられる。

325 **however** 「どんなに…でも」の用法 標準

▶ **however** は、通例、直後に形容詞・副詞を伴い「**however** + 形容詞[副詞] + S + V...

」の形で用い、「どんなに…でも」という意味の譲歩の副詞節を作る。**however** は常に **no matter how** に置きかえられる。

+プラス **however** が直後に形容詞・副詞を伴わないときは「どんなやり方で…しようとも」の意味になるが、その用例は比較的少ない。

However you go, you must get to the airport by five.

(どんな方法で行くにせよ、あなたは5時までに空港に着かなければならない)

326 **no matter how** + 形容詞 + S + V... 「どんなに…でも」 標準

▶ 問題325の **however** + 形容詞 + S + V... 「どんなに…でも」を、「**no matter how** + 形容詞 + S + V...」で表す。